

病害虫発生予察注意報（第2号）

令和6年8月14日
神奈川県農業技術センター

病害虫名：果樹カメムシ類

作物名：果樹全般

1 発生地域：県下全域

2 発生量：多

3 注意報発令の根拠

- 予察灯における7月1半旬～8月1半旬のチャバネアオカメムシ誘殺数は、伊勢原市三ノ宮で平年の2.3倍（本年13,412頭、平年5,750頭）、小田原市根府川で4.7倍（本年8,455頭、平年1,793頭）であり（図1）、クサギカメムシ誘殺数は、伊勢原市三ノ宮で平年の6.0倍（本年4,556頭、平年754頭）、小田原市根府川で4.9倍（本年1,478頭、平年300頭）となっている（図2）。
- フェロモントラップにおける7月1半旬～8月1半旬のチャバネアオカメムシ誘殺数は、伊勢原市上粕屋で平年の2.7倍（本年2,578頭、平年951頭）、小田原市根府川で9.4倍（本年4,754頭、平年505頭）であり（図3）、南足柄市怒田で平年の6.7倍（本年4,047頭、平年600頭）となっている（データ省略）。
- 7月の巡回調査において、ナシの被害果率（発生度）が過去10年間で最も高い。
- ヒノキ球果枝における7月上旬～8月上旬のチャバネアオカメムシ成虫寄生頭数は、平年の3.7倍（本年49.2頭、平年13.4頭）となっている（図4）。
- 餌であるヒノキ球果におけるカメムシ類の口針鞘数（県西部5地点調査）は、7月下旬に平均23.2本/果実、8月上旬に同39.6本/果実と、8月上旬に、ヒノキからカメムシが離脱する目安とされる25本/果実を超え、既に離脱が始まったと考えられる地点がある（データ省略）。平年では9月下旬から離脱が始まるため、本年は果樹園への飛来が早いと考えられる。
- 以上より、今後ヒノキから離脱分散した成虫が果樹園に飛来すると考えられるため、8月～10月に被害が多くなると予想される。
- 気象庁が7月23日に発表した向こう3ヶ月の気象予報は、気温が平年より高いことから、本虫の活動および新世代成虫の増殖に好適な条件である。

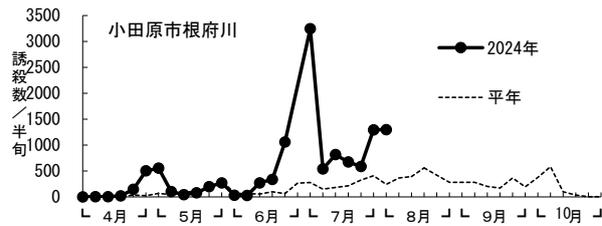
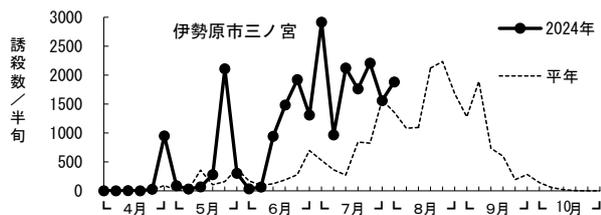


図1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数の推移

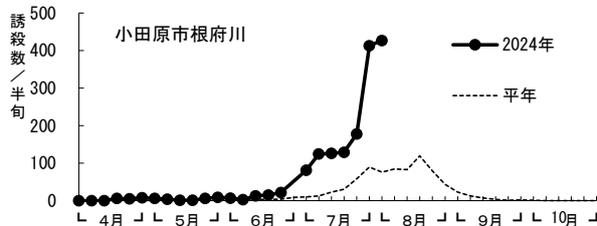
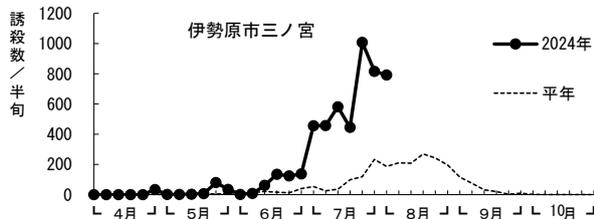


図2 予察灯におけるクサギカメムシ成虫誘殺数の推移

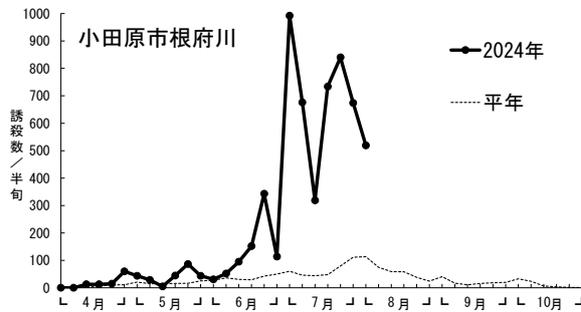
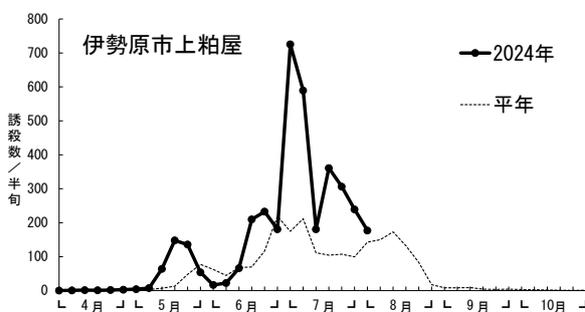


図3 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数の推移

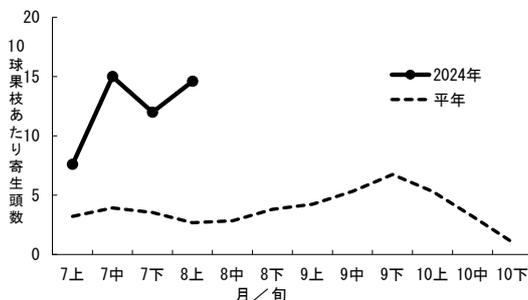


図4 ヒノキ球果枝におけるチャバネアオカメムシ成虫の寄生状況
(5地点調査、1地点当たり10球果枝の寄生頭数調査、10球果枝合計値の5地点平均)

4 防除対策

- (1) 果樹園の内外を見回り、発生を認めたら直ちに防除する。山際のは場、特にヒノキ・スギ林に隣接する果樹園は、急激に発生が増加することがあるため注意する。また、台風通過後に飛来が多くなる場合があることにも留意する。
- (2) チャバネアオカメムシには黄色防蛾灯が有効とされている。
- (3) 農薬使用の際は、必ずラベルの記載事項を確認し使用基準を遵守する。合成ピレスロイド剤や有機リン剤は天敵類に影響を及ぼし、ハダニ類やカイガラムシ類が増えることがあるので留意する。

神奈川県農業技術センター 病害虫防除部
〒259-1204 平塚市上吉沢1617
TEL 0463-58-0333 FAX 0463-59-7411
<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cf7/cnt/f450002>